

## 第105回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：令和5年4月17日（月） 12：00－13：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
後藤委員長、常田委員長代理、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、鈴木委員、松尾委員
  - (2) 事務局  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官、齊藤参事官
  - (3) 関係省庁  
総務省国際戦略局宇宙通信政策課：小川課長  
文部科学省研究開発局：千原局長、上田宇宙開発利用課長  
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室：伊奈室長

4. 議事（○：意見等）
  - (1) 宇宙基本計画（案）について

### <事務局より説明>

○片岡委員 非常にいい形でまとまっていると思いますし、本当に短期間の間に、非常によくまとまった形になっていると思っています。

あと、これはコメントというか、お願いベースの話になりますが、何といてもスペース・トランスフォーメーションと、これから待たないでいろいろな改革をやっていかないとならないと思います。

その中で、日本にとっては、何といてもJAXAが基幹となると思いますので、一言で言うと、JAXAが変わらなければ、日本の宇宙も変わらないと言っても過言ではないと思うのです。

JAXAの中長期目標、中長期計画7年の5年が終わりまして、あと2年ということですが、今回、宇宙基本計画が変わりますので、中期目標、中期計画も変わることになると思います。宇宙技術ビジョンみたいなものがありましたので、今後、できればJAXAビジョンみたいに、これからのJAXAの方向性、機能強化について、ぜひJAXA分科会と基本政策部会も含めて議論していただければと思いますので、要望、コメントはそれで、本当に御苦労さまでした。以上です。

○滝澤参事官 片岡委員は、JAXA分科会にも当然所属されておりますし、御指摘のとおり、しっかりとJAXAの皆様方にも問題意識を持っていただいで進めていただけるように、文科省とよく連携して、議論を進めさせていただければと思っております。ありがとうございます。

○常田委員長代理 宇宙技術ビジョンと書いてあるところなのですが、少し前の案では、宇宙技術戦略という書き方になっていたと思います。

宇宙技術戦略ないしビジョンがなぜ大事か、どうしてそういう議論になっていたかというところを振り返りたいのですが、シーズオリエンテッドのビジョンとか戦略はいろいろなところで書かれて、日本としてこういう技術が必要だ、ああいう技術が必要だというのはありました。新しい宇宙技術戦略は、ニーズも加味して、ニーズドリブンで、日本としてここは必ずやらなくてはいけない、あるいはニーズではなくても、将来の日本の宇宙開発を考えたときに、やらなくてはいけないことをまとめるためのものです。このため、格の高い宇宙技術戦略を仕立てていこうというのは、宇宙政策委員会、その下の基本政策部会等でかなり議論したと思います。

今見ると、戦略がビジョンに変わってしまして、戦略と言うと、国としてやらなくてはいけない戦略ですので、重いわけですが、ビジョンと言うと、参考文書みたいに見えますので、そこは、できたら戦略に戻していただけないかということでございます。

松井前委員長代理も、「とがった技術を日本が持たなければ先はない。」という発言をかねてよりされていて、そういう議論から、宇宙技術戦略につながっていったと思います。この辺は事務局からコメントをいただければと思います。

○滝澤参事官 委員長ともよく御相談して進めさせていただければと思っております。

○後藤委員長 今の滝澤さんのコメントについて、常田さんからそういう御指摘があったので、これはしっかりと事務局にも詰めてもらって、検討してもらう。

あと、関係各省ともいろいろと議論を積み重ねてやっていくことになると思いますが、今の常田さんの御発言は非常に重いと思いますので、しっかりとこれから検討していきたいと思っております。

○鈴木委員 大変よくまとめていただき、本当に過不足なくというか、水も漏れる隙間もない、きっちりした文書が出来上がっているのではないかと思います。

先ほど片岡委員からもお話がありましたように、これからJAXAがどういう役割を果たすかというところで、35ページの今後、民間の商業ステーションがどうなっていくのかというポストISSの34～35行目にかけての取組が多分これか

ら大きな課題になってくるかと思えます。

それは先ほど常田委員長代理がおっしゃった技術戦略、ないしは技術ビジョンとも関わる問題でありまして、要は、日本が有人技術をどういう形で持っていくのかということと、それを国が持つのか、民間が持つのかというところの方針をかなり早い段階で、つまり、この基本計画の期間中に、最低でも何かはっきり出さなければ、恐らくいろいろな意味で乗り遅れるというか、2030年はすぐそこに来ますので、その頭出しをこれから少しやっていかなければいけない。

今次計画に書く必要はないと思うのですが、恐らく今、大きな流れとして、NASAは、低軌道は民間にアウトソーシングしていく方向性Nいあります。

民営化と言うと、何となく誤解を生じさせる表現になるかと思っております、それを民間にアウトソースする形で、それでも政府がコミットして、財政的に支えるというところの立てつけを実際にやろうとすると、多分、財務当局とか、いろいろな各方面との調整が必要になってくると思えますので、日本としても、将来的に外国の、そして日本の商業ステーションの在り方をどのように向けていくのかを考える必要がある。

ほっておいたら民間が勝手にやるものではないので、政府が計画的に進めていくテーマかなと思ったので、その書きぶりのところは、もう少し踏み込んでもいいかなと思えます。ないしはここはここで止めておいても、さらにここから先に進むよう、次期宇宙基本計画の期間内に進めていただければと思っております、コメントさせていただきます。以上です。

○篠原委員 内容そのものは、皆様の御意見のとおり、非常によく練られていて、多岐にわたる意見を上手に取捨選択いただいて、まとめていただいたと思っております。

私は、追加のコメントは特にはないのですが、文章量がやたらといっぱい、41ページぐらいありまして、プレゼンとして、ぱっと見で全体像をつかむのに、このパウポベースの資料1-1を御説明いただいたと思うのですが、今、聞いていたら、2ページ目の1ポツの環境認識があって、その上で目標を立てて、こういうスタンスでやるという3段構造なのです。

箇条書きの数がそれぞれ違うので、どれがどれに対応して、要するに、1番の環境認識のために、2番の目標を立てて、3番のこういうスタンスでやろうみたいな、完全に1枚で合体させたときの連関表というか、つながりみたいなものを作るのは難しいのかなと思って聞いていました。

要するに、環境認識があっての目標が1対1なら割とすっと入るのですが、何せ文章が多いので、同じ番号が何回も出てきたりして、私の足りない頭でついていけなくて、要は、A41枚で分かる宇宙基本政策みたいなものができたらいいかなと思って聞いておりました。

別に本筋ではないので、分かりやすくするために、ずっと読んでいると、また(1)が出てきて、これはどのカテゴリーだったか、だんだん分からなくなってくるので、分かるようにしていただけたらもっといいかと思いました。以上です。

○滝澤参事官 構造的には、今、篠原先生がおっしゃるとおりでございます、1ポツの環境認識と3ポツのスタンスにつきましてはいろいろとあるのですが、2ポツの目標と将来像と、4ポツの具体的な取組は、4つに分かれて、きちんとまとまっております、これが1枚で分かるA3紙を別途作っておりますので、全体像が御覧いただけるものとして御説明できるようにしたいと思っております。

○後藤委員長 今の篠原さんの御指摘は、全く私も同感でありまして、それは前々からこの会議でも、私も同趣旨のコメントを言っているわけですが、相当多岐にわたる。だから、なるべく一般の普通の方にもある程度理解できるように、1枚にまとめる努力は絶対に必要だろうと思います。

○河西局長 補足でございますが、環境認識と基本的スタンスの2つは、分野横断的なものであるものですから、目標と将来像、具体的なアプローチは分野で書かせていただいております。

こういう将来像に向けて、こういう具体的な取組をやるのだというところは、分野で書かせていただいております、環境認識と基本的スタンスは、分野横断的なものも含んでおりますから、こう見てしまうと分かりにくいと。

御指摘のとおりだと思いますので、A4ですと書き切れないかもかもしれませんのでA3ぐらいの1枚紙を視覚的に分かるような形で御用意させていただきます。

○篠原委員 ありがとうございます。私も、何せポツの数が6、4、6、4みたいな感じになっていて、1対1になっているとは全然思っていないくて、恐らく、複数にわたる分野横断的な。

でも、全部が全部につながっているわけではないですね。

その辺が分かると、整理方法として、こういう問題があるから、こういうアプローチをしていて、このようにと、多分、あみだくじみたいにしてできるのかなと思って、見ていました。

○河西局長 頑張ってA3ぐらいにまとめさせていただきたいと思います。

○篠原委員 網羅しながら抜けがないようにというのは、多分、一番難しいと思うのですが、よろしく願います。

○櫻井委員 私も、全体としては、そつなくまとめていただいているかと思っております、キーワードとしては、官主導から官民共創と新しめのワードで決めているということなのかと思っております、安全保障のところも、スマートに書かれている感じがいたします。

39ページに【契約制度の見直し】という話があって、これはJAXAのことも関連するのかもしれませんが、なるべく民間に扱いやすいような形で契約制度も見直していくということなのですが、これも官と民の関係に関わりませんが、官と民の関係で、民間に便利なようにとすると、国益とか公益のほうが後退するというのがひとつのパターンです。民間全体の遵守すべき事項が相対化することがあります。

しかし、宇宙活動は、そうは言っても国が非常に重要だし、主権国家が基本で動いているので文章としては、最初の1行目ぐらいに「国益に配慮しつつ」とか、そういう留保がないとという感じがするのですが、どうですか。そのぐらいあってもいいのではないかと思います、いかがですか。

○滝澤参事官　また委員長も含めて御相談させていただきますが、【契約制度の見直し】に書かれている趣旨は、もともと特に今の衛星開発の現状は、先生がおっしゃったとおり、国益に反するような状況になっているのではないかとこの問題意識からスタートしております。

と申しますのも、衛星を開発するとき、今はそのようにせねばならないと決まっているわけではないのですが、おおよそ最初の5年間ぐらいの衛星開発のプロセスのスタートラインで総額を決めるというなかなか厳しいスタイルになっておりまして、国がやっているプロジェクトで、初物で難しければ難しいほど、終わりに近づくほど費用が増えていって、請負契約でやっているの、民間企業が赤字をかぶると。こうすると、産業界の皆さんが宇宙の仕事をしたくなくなってしまうという国益に反するような状況になっております。

それはさすがに見直さないといけないのではないかとこの問題意識で、今、文科省、JAXAと一緒に議論させていただいている話をここに書かせていただいております。

○櫻井委員　ベクトルが逆ということ。

○滝澤参事官　ベクトルが逆とおっしゃいますと。

○櫻井委員　国益の理解の仕方が問題だと思うのですが、主権国家や同盟国、同志国という、議論ですから、ベースの動きはむしろ国単位ということですね。JAXAなども公的な存在であり、そちらに傾き過ぎているものを民間事業者に対して少し有利なように変えていくということですね。

○滝澤参事官　民間企業に有利と申しますか、今、民間企業は、防衛産業でも随分と撤退の話が出てきておりますが、普通に経済活動として、常識的にゴーイングコンサーンみたいな企業がコミットし続けるような状況になっていないケースがあるのであれば、それは正しましょうということ議論させていただいているということかと思っております。

○櫻井委員　どうやって書きましょうか。

○文部科学省 さらに背景を補足しますと、JAXAは、必ずしも別に民間企業をいじめようと思ってこれをやっているわけではなくて、20年前に遡ります。

20年前のロケットの失敗のときに、JAXAと民間企業の役割分担が不明確であったと。

製造自体を行うのは民間企業であって、最後に作るのも民間企業といったことで役割分担の適正化が行われた。その結果、民間企業にそれなりの責任を有してもらおうようにしてきた。

ところが、それを衛星開発の最初から全部民間ねと言い始めると、民間企業もつらいので、衛星開発の最初の部分について、もう少し柔軟に考えましょうということで、20年来の宿題をこなしつつ、最近の動向に合わせてようという議論が今現場でなされているということになります。

○滝澤参事官 私の御説明がよくなかったかもしれないのですが、今、櫻井先生がおっしゃってくださったことは、私がここで決める話ではないので、御相談させていただきたいと申し上げたのですが、方向性としては、全く真逆のことを申し上げているつもりはなくて、御指摘の例えば最初の文章に「国益の観点を考慮する」という文章を入れさせていただく方向で御説明申し上げたつもりでございました。

○櫻井委員 おっしゃっていることを文章にしようとする、難しいように思いますが、防衛産業自体について、形式はともかくとして、これが一般的な民間企業かというそもそも論もあり得るところです一般のマーケットと違うので、そもそもそこをどのように認識しておくかというところが出発点にあって然るべきで、そうしたニュアンスが入るように、もう少し中間的というか、多層的な表現を追求していただきたいと思います。

○松尾委員 よくまとめていただいていると思います。

先ほど分かりにくいという話もあったように、私もこれを読むときに、目次が横にないと、似たようなことが繰り返してくるので、どこの言葉かなということを見ながら目次と、ページの中に、章の名前とか多少何かあったりすると、見やすいのかなという気もしているところでございます、私の関連するところでは、輸送系がありました、それにつきましては、かなりいろいろと踏み込んで書いてきていただいていますので、今後、いろいろと期待できるのかなと思ったりもしております。

また、今回、安全保障に関わるのがすごい。それを受けてつくり変えたということもあります、それぞれの章の最初のほうに書かれているということですが、こういう流れの中で、宇宙でもこういうことをきっちり考えますよとアピールするという意味ではよいのかなと。

特に、あまり重めな感じでは書かれていないので、大丈夫なのかなと思います

すが、こういった表現からも、今後、そういった方面も含めて産業も進んでいくのかなということも期待できると思いますし、いろいろなタイプの金銭的な支援もお考えかと思しますので、ぜひそれを進めていただければと思います。以上です。

○後藤委員長 基本計画の改定に向けて、この間、委員の皆様から大変活発な御意見をいただきました。また、事務局、各省庁の皆さんも、改定作業に向けて、大変しっかりと取り組んでいただいたことに対して、委員長としても皆さんに感謝いたします。各委員の皆さんがコメントされているとおり、今回の基本計画の改定の内容については、今までの議論が非常にしっかりと反映されたものになっていると私も評価しております。そういう中で、本日、委員の皆さんからいろいろな御意見をいただきました。その御意見につきましては、事務局において、可能な範囲内で案文修正の検討をお願いしたいと思います。

委員会としての修正とその扱いについては、委員長である私に一任していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○後藤委員長 それでは、修正を検討していただくということで、よろしくお願いいたします。そして、その案文、ドラフトについては、今月下旬からパブリックコメントにかけることとなります。

これについても、よろしいでしょうか。

（「はい」と声あり）

○後藤委員長 ありがとうございます。

## （２）宇宙輸送小委員会の設置について

### <事務局より説明>

○松尾委員 座長を依頼されておりました、これまで輸送ワーキングからスタートいたしまして、既に徐々に進めてきているところでございます。

今、基幹ロケットのみならず、今後は民間の力も含めて、日本の輸送系を育成して行って、発展させなければいけないということもありますので、この委員会でどこまでできるかは分かりませんが、ぜひそういった力になればと思っております。

○後藤委員長 それでは、特段の異議もないようですので、宇宙政策委員会として了承したいと思います。

それでは、そのほかの議題として、1点御報告であります。

宇宙科学・探査小委員会の座長については、委員長である私から、常田委員に

お願いしたいと思います。常田委員、よろしく申し上げます。

○滝澤参事官 本日も、多々貴重な御意見をどうもありがとうございました。

いただいた御指摘を踏まえまして、修文案等を検討して、委員長に諮らせて  
いただきたいと思います。

○後藤委員長 それでは、本日の委員会はこれで閉会いたします。

以上